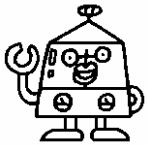


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の発芽と成長 / 理解シート

球根とたねのちがいは、なんなの



たねは花がさいた後にでき、球根は地中に栄養分がたくわえられてできるが、どちらも子孫を残す^{やくわり}役割をしているよ。

たねができないで、球根がふくらむ植物も多い

たねは、花のめしべに花粉がつくとできます。たいていの植物は、たくさんのたねを風に飛ばしたり、虫や鳥などの動物に運んでもらって子孫をふやします。

チューリップ、クロッカス、ダリアなどは、たねではなく球根をうえます。園芸用に改良されたこれらの花は、たねができなくなったり、たねから育てると、球根がふとって花をつけるまでに、何年もかかったりするからです。

これらの草花の原産地は、1年の半分ぐらいは雨がふらない気候の所が多いのです。そのため、花がさいた後は、栄養分を地中の球根にたくわえ、地上部分はかれて、次の雨の時期がくるまで、地下でねむっている植物だったのです。

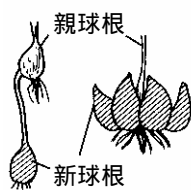
たねは、^{はつが}発芽するまでに必要な養分と、葉やくきや根になる部分をもっています。球根にも、たねと同じものがそろえられているのです。

球根の養分がたりないと、花がつかない

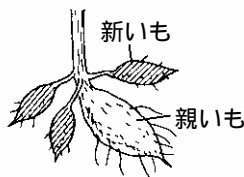
植物の種類によって、新しい球根のでき方がちがいます。スイセン、ヒヤシンス、チューリップなどは、親球根のわきに新しい球根ができます。ダリアは、親いもの近くの根が、新しいもになります。ユリは、くきにも小さい球根ができてきます。

これらの新球根は、毎年少しずつふとり、大きな球根になると花がさきます。小さい球根をうえても、葉が大きくなるだけで、花がつくまでの養分がないのです。

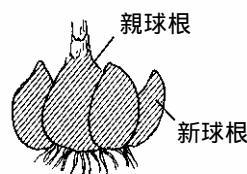
球根のいろいろ



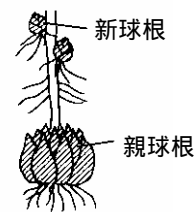
チューリップ



ダリア



スイセン



ユリ